

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

令和六年十一月度 入賞句一覧 投句数 六百三十八句



特選

名和 永山 選

秋の風今日の匂ひを変へて過ぐ

本巢市

山田 香山

秋の風が運んでくる匂いは、多種多様である。植物では金木犀がよく知られているが、秋桜や薔薇、マリーゴールドなどがある。しかし、「今日の匂ひを変へ」なので、花だけに限らないのである。生活の中にある、秋刀魚を焼く匂いだとか、稲の収穫の時の匂いとかがある。

生活の中での細かい気づきが句の素材である。感性を豊かにしている作品である。

思春期の悶々ゆずの肌ざはり

岐阜市

伊藤 をさむ

句またがりの句である。「思春期の悶々」と「ゆずの肌ざはり」の二章である。前段は、思春期の心情的な様子。後段はその時期の肌の荒れ。その二つを、上手く取り合わせている。特に「ゆずの肌ざはり」は、若き肌だと納得する。

古井戸に遺る滑車や十三夜

岐阜市

堀江 美州

季語「十三夜」は、後の月とも言う。十五夜で輝いている様子から、一ヶ月ほど経っている。

この句の良さは、中七の「や」の切字の効果である。「滑車」を強調しつつも、「十三夜」が古井戸を照らしているという景が見えてくる。

季語「十三夜」の生きた句である。

秀逸

秋高しゴールテープはじいの腕

大垣市

安藤 弘子

新藁の縄なふ祖父の太き指

東京都狛江市

椎野 一恵

稲架掛けをはづす農夫の安堵かな

大垣市

平野 きぬよ

軒に舟吊るす家あり豊の秋

大垣市

小林 研

時雨きて傘の柄伝ふ重たさよ

大垣市

藤岡 啓子

おつもりに一品添へし菊脛

東京都江戸川区

羽住 玄冬

コスモスや後ろ歩きの保母の声

大垣市

岡田 幸子

吾亦紅老女はきはきものを言ふ

大垣市

吉田 てるみ

呆けても母は母なり枯すすき

長野県下伊那郡

長沼 まさし

花組の名札を付けて案山子立つ

愛媛県松山市

平野 ヒサエ

入選

田の中に一基の古墳曼殊沙華

不破郡垂井町

久保田 紘義

身罷りし兄を悼むや暮の秋

大垣市

酒井 和美

柚子たわわ一氣に活気づく孤村

養老郡養老町

田中 紫香

白菊や遺影にもらす胸の内

埼玉県川口市

吉永 寿美子

色艶に甘さ見定め葡萄買ふ

岐阜市

花川 和久

深秋や積みある本を読み返し

大垣市

久保田 悟義

獺祭忌寝そべる猫と目が合いぬ

京都府宇治市

八田 弥須子

頑を悔いてひとり居石蓀の花

大垣市

北浦 典子

日溜で地に低く舞う蜩蝶

大垣市

吉田 しず子

輪を広げ人が交わる紅葉狩り

大垣市

土屋 和馬

秋深し何となく寄る古本屋

東京都狛江市

椎野 一恵

霊山の静かさに散る紅葉かな

安八郡輪之内町

野村 照子

めい想の小径霧あり難所あり

養老郡養老町

松永 智志

分校に馴染む教師や草風

愛知県豊田市

城山 悠水

斥候の烏騒ぐや柚子いろむ

安八郡安八町

花野のほら

選者吟

マンションの冬の蠅棲む談話室

永 山



一般の部